



Learning View

ラーニング ビュー

まなチャレ教材と評価問題を活用して確かな学力の育成を

今号では、「児童生徒が主役の授業をととした確かな学力の育成」に向けて、まなチャレ教材（国語）と評価問題を活用した授業づくりのポイントを紹介します。

学習状況の適切な把握と授業への反映

光村図書の中学校第1学年教科書には、「思考力・判断力・表現力等」の「C 読むこと」の指導事項を受けて、『ダイコンは大きな根？』と『ちょっと立ち止まって』の説明的文章の単元が位置付けられています。

今号では、上記二つの単元の内、「構造と内容の把握」における学びを、まなチャレ教材を活用して補強・補完するとともに、今年度から導入された評価問題を活用して定着度を把握し、それを今後の学習指導に生かす授業づくりを紹介します。

～まなチャレ教材と評価問題を取り入れた単元構想～

教科書教材での学習

- ・段落の役割に着目し、文章の内容を捉える
- ・文章の構成に着目し、要旨を捉える
- ・筆者の書き方の工夫を考えてまとめる

まなチャレ教材を用いた授業

説明的文章における文章構成を、根拠に基づいて捉えることをねらいとする

評価問題

補完

評価問題の結果を分析し、更なる手立てを講じる



【第1回まなチャレ教材の概要】

「あっさり」と「さっぱり」の擬態語が文脈の中で使われる場合、ある条件では両方使うことができるけれど、ある条件ではどちらかしか使えないことを、具体例を示して説明した文章である。

<授業の様子>

導入：教科書教材の学びを想起する



これまで学んだ、段落の役割と文章構成に着目し、まなチャレ教材の課題に取り組みましょう。



課題：文章を三つに分けるなら、ア～エに示された分け方のどれを選びますか。選んだ理由と、選ばなかった理由をグループで話し合い、まとめましょう。



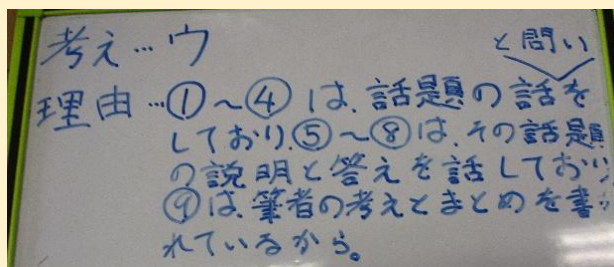
選んだ理由だけでなく、選ばなかった理由についても話し合うことで、段落の役割や段落相互の関係を根拠に説明する必要が生じ、生徒は文章の構成をより確かに捉えられるはずだ！

展開：既習事項を生かしながら協働して課題に取り組む

「このように」という言葉で始まる9段落目が結論かな。そう考えるとウが適切だと思うけど、残りのア、イ、エの分け方は、なぜ不適切だと言えるのかな…。

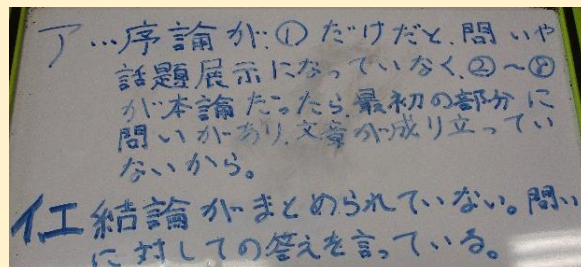


一見アも適切のように思えるけど、問いと答えの段落の関係で考えるとアは噛み合っていないじゃないかな。イとエは接続する語に着目して考えると結論と結び付いていないね。



適切だと考えた選択肢の理由

図：生徒がまとめたホワイトボード



不適切だと考えた選択肢の理由



①教科書教材での学びを生かしながら協働して課題に取り組むことで、自然と対話が生まれるとともに、対話を通じて学びを深めることができました。

終末：評価問題と振り返りを行う



これまでグループで考えを深めてきました。最後に個人でもう一問問題に取り組み、終わった人から振り返りを書きましょう。

評価問題：この文章の8段落目は、文章全体の中でどのような役割を果たしていますか。最も適切なものを、ア～エの中から選び記号で書きましょう。

振り返りの視点：相手に分かりやすく伝えるために大切なことは何ですか。

生徒の振り返りの記述



自分が説明したいことを序論、本論、結論のように整理して伝えることが大切です。

問いと具体例が相手に分かりやすく伝える上で特に重要で、説得力も増すと思った。



評価問題を基に学習指導の改善・充実を図る

本実践を行った学級の評価問題で、誤答を選んだ生徒に共通するつまづきとしては「段落の具体例に着目しすぎるがあまり、大きな意味のまとまりを捉えることできなかった」ことが挙げられました。



授業者は今回の評価問題の結果から、次時に『ちょっと立ち止まって』と『まなチャレ教材』の文章構成を比較して提示し、大きな意味のまとまりを全体で再確認する学習活動を位置付け、学びの定着を図りました。さらに、次の説明的文章の単元において「構造と内容の把握」に着目した授業時間を多めに確保することと、その中で文章構成を捉える場を設定し、段落相互の関係を吟味したり説明したりする指導を行うことを決めました。



②紹介した授業ではA中学校の生徒の実態を基に「構造と内容の把握」を重点的に指導することをねらいとして授業を構想しました。各学校の生徒の実態、単元・授業のねらいに応じて、まなチャレ教材と評価問題を柔軟に活用してください。

ここにも注目！



評価問題を生かし、意図的・計画的な単元構想を

右の図は、令和8年度全国学力・学習状況調査中学校国語の調査問題における、趣旨や概要をまとめた図です。解説資料では『「C 読むこと」の学習においては、『構造と内容の把握』、『精査・解釈』、『考えの形成、共有』の学習過程に沿って示された各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導することが大切」と記載されています。

生徒が各指導事項を身に付けることができているかどうかを、評価問題を活用して見取りましょう。そして、生徒の実態に応じて、各指導事項の育成を単元のどの部分に位置付けるかを検討するとともに、反復的・螺旋的に力を身に付けられるよう指導を継続することが大切です。

学習過程		〔思考力、判断力、表現力等〕	
構造と内容の把握	設問一	《構造と内容の把握》 〔第1学年〕C 読むこと ア	
	趣旨	文章の中心的部分と付加的な部分について叙述を基に捉えること	
	概要	文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する	
精査・解釈	設問三	《精査・解釈》 〔第1学年〕C 読むこと ウ	
	趣旨	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈すること	
	概要	文章中に書かれている、会話の表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	
考えの形成共有	設問四	《考えの形成、共有》 〔第1学年〕C 読むこと オ	
	趣旨	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする	
	概要	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子や擬態語の効果を書く	

(参照)「令和8年度全国学力・学習状況調査解説資料中学校国語」pp40-41

まなチャレ教材と評価問題の積極的な活用をお願いします

今号では、まなチャレ教材（国語）と評価問題を活用した授業づくりのポイントを紹介しました。

紹介した授業は、上記の全国学力・学習状況調査の問題と対応していることが分かります。まなチャレ教材や評価問題を活用することは、日々の学びをより確かなものとするにつながります。

各学校におかれましては、児童生徒の確かな学力の育成のために、引き続きまなチャレ教材を活用するとともに、今年度から始まった評価問題を積極的に活用し、学習指導の改善・充実を図ってください。

